



木もれびの森の毒草

今年も温暖化のせいでしょうか、夏は異常気象で非常に暑く各地では最高気温を塗り替え、大雨で土砂崩れや洪水が発生して被害が甚大でした。今まであまり考えられなかった竜巻の被害も多くなりました。

今年も植物は季節を忘れず花を咲かせて我々の目を楽しませてくれました。木もれびの森にギンリョウソウ・オトギリソウ・センボンヤリなど新たに見ることが出来ました。

今回の毒草は木もれびの森にもある「**ヨウシュヤマゴボウ**」です。

ヨウシュヤマゴボウ(洋種山牛蒡) ヤマゴボウ科

別名(アメリカヤマゴボウ)。北アメリカ原産の大型多年草。

茎は高さ 1.5~2.0m 位になる。枝は紅色。花は白色でやや紅色を帯びる。実は緑色から黒色に変化。葉は互生。

ヨウシュヤマゴボウは山菜のゴボウとは違い有毒植物で全体にわたって毒が有り食べられません。

果実をブルーベリーやヤマブドウと間違えて誤食する事故もあり注意が必要です。誤食すると嘔吐や下痢が起こり、ときには命にかかわるほどの猛毒です。アメリカ合衆国では、以前着色料として、安価なワインなどに用いられたが、毒が有るため現在は使われていません。

毒成分はアルカロイド・サポニン・アグリコンなどである。また根には**硝酸カリウム**が多く含まれています。一般に山菜のヤマゴボウとして販売されているのは**ハバヤマボクチ・フジアザミ・モリアザミ**などの根を加工したものです。(田崎)



ヨウシュヤマゴボウの果実

木もれびの森の野鳥たち 12月

<冬鳥もやって来て、森は冬支度>

11月、真冬日・小春日和と気温変化が大きい中を季節は冬へと向かいました。

この秋、森の木の実の豊作。木々の実は赤・黒・紫と様々に工夫を凝らして鳥を待ちます。さっそく、木の実のバードレストランへやってきて、大騒ぎをしたのはヒヨドリの群れ。渡りヒヨドリといわれ、群れで渡りをする仲間がいるようです。

北の国からの一番乗りは今年も**ジョウビタキ**。栗畑に姿を見せ、ヒッ、ヒッと鳴いて尾を細かく振り、なわばり宣言でしょうか。少し遅れて、下面が黄緑色の**アオジ**。ヤブや植え込みの下にいてなかなか姿を見せてくれません。中旬には**ツグミ**や**シロハラ**、松林を好む**ビンズイ**もやってきて、そろそろ**シメ**や**ルリビタキ**も加わり、冬鳥や留鳥たちの越冬生活が始まります。

夏鳥の渡りは、山で繁殖を終えた**キビタキ**などが 10 月下旬頃まで立ち寄って、休憩や栄養補給をしていく姿がありました。

ところが 11 月半ば過ぎ、雪の便りも届き始めたというのに**オオルリ**(雄)の遅い立ち寄りがありました。



アオジ

途中、何かアクシデントがあったのか？無事南の国へ帰り着きますように。

時々森周辺で暮らすオオタカも、狩にやってきてはカラスの群れに追われ、針葉樹の林に逃げ込んだりもします。しかし上手く狩に成功した時は地面に獲物をむした羽毛を散らかしていきます。また厳しい冬を前にねぐらの穴の奪い合いなのか、コゲラが巣穴に身を潜めているその穴へ、シジュウカラがホバリングでアタックを繰り返しますが、コゲラも負けずにとがった嘴を突き出して応戦していました。いのちをつなぐため、生き物たちには厳しいドラマが繰り広げられます。(瀬尾)

木もれびの森の樹木 (29)

森の景観は落葉樹の緑一色から赤、橙、黄の紅葉の季節へと移りかわってきました。

今年の夏の気象は全国的に厳しい暑さとなり、各地で過去最高記録を観測する異常気象でした、しかも10月に入っても夏日が続き、10月下旬には大型台風の影響を受けました。

その後11月に入って急激に寒くなり冬の様相の気配になり、秋の気候は一か月ほどしかなかったのですが、紅葉の季節は確実にやってきました。

美しい紅葉の条件は温度、光、湿度の主に3つの条件ですが、木もれびの森の紅葉にはこの条件に適していないので紅葉の名所のような美しさとはいえませんが、それでも黄色になる黄葉と褐色になる褐葉がほとんどで比較的長期間楽しむことができます。

今号の樹木はヤブムラサキとネズミモチです。活動地の野鳥の通り道には2011年の調査ではそれぞれ4本ずつ植生していました。



ヤブムラサキ

ヤブムラサキ (藪紫) はクマツヅラ科ムラサキシキブ属で明るい林内に生育する落葉低木で、高さ2~3mになります。枝や葉に毛が多く、とくに葉の裏には白い星状毛が密生しています。花期は6~7月で紅紫色の花が葉のわきに数個つきます。果実は紫色に熟します。類似種のムラサキシキブと似ていますが、ムラサキシキブは枝や葉、花に毛がなく花の色が淡く、果実はヤブムラサキのほうがやや大きく果実のがく片が4裂し、ムラサキシキブは5裂します。用途は幹が強靱で道具の柄や杖にします。



ネズミモチ

ネズミモチ (鼠糞) はモクセイ科イボタ属の常緑小高木で5mほどになります。樹皮は灰褐色。葉は皮質で厚く、光沢があり対生です。花は6月頃、新芽の先に白色の小さな花を多数つけます。果実は10~12月ごろ楕円形で黒紫色に熟します。名前の由来は果実の色や形がネズミの糞のようで、葉がモチノキに似ていることによります。よく似た同属のトウネズミモチは中国原産でネズミモチより樹高が高く、葉も花も大きい。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈が見えないがトウネズミモチは明瞭に見えるのが見分けのポイントです。(林)